

和漢脩身書

河村與二郎編輯

卷一

151

71
259

172

大日本教育書館			
一	一	一	一
〇	四	一	八
册	號	架	函

東
新
一

K110.1
219
1

B

I

367



許 免 權 版

田中芳男閱正

河村與一郎編輯
櫻戸玉緒校字

和漢脩身書

明治十五年
十月刊行

文求堂藏版

端言

此編ハ。脩身初等學誦ノタメニ。哀メテ以テ。吾黨ノ子弟ニ授ケル所ナリ。而シテ獨リ。和漢ヲ擧ケ洋ヲ遺スモノハ。此ヲ重シジ彼ヲ少シトスルニ非ズ。則チ本年三月。文部省ノ教令ニ從フテ然ル也。原ルニ前聖往喆。善言規語ヲ攄ヘ。以テ惠ヲ將來ニ垂ル。其辭淺近其旨深遠。大ニシテ國家ノ治教。小ニシテ自家ノ修齊。一モ其衷藪ニ出サルナシ。豈造次モ講習ヲ欠クヘケンヤ。况ヤ童兒向學ノ秋ニ於ルヲヤ。今裁次スル所。第一卷折テ六

章トス。務メテ簡單坦夷ノ語ヲ拾ヒ。出所ノ雅俗ニ拘ラズ。學者ヲシテ。業ヲ卒ヘ易カラシムルヲ要ス。而シテ掲載セル。綱常彝倫諸徳百行。節々自カラ畛域ヲ立テ。秩然不紊ニス。每卷皆然リ。第二第三ノ卷ハ。稍累句疊言ヲ採ル。第四第五ノ卷ニ暨リ。閒高尚深遠ノ説ヲ収メ。或ハ亦其全文ヲ載セテ。益耳目ヲ擴開シ。漸ヤク躡等進級ノ地ヲ為サシム。庶クハ。他年徳器成就ノ根基。其レ必ス此ニアラシコトヲ

明治十五年十月

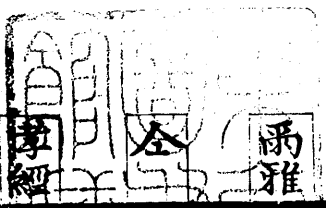
編者誌

和漢修身書卷一

田中芳男 闋正
河村興一郎 編輯
櫻戸玉緒 校字

第一章

父母小善如を孝と次。
兄弟に善ぶ如悌中寸。
父子乃道冬天性なり。



和漢修身書卷一

後漢書

全

孝經

小學紺珠

○兄弟爭長左者其手乃之也。

○孝為百行之本。衆善乃

はし免。

○五刑之屬三千。辜不孝

とり大を為る者なり。

○身以治世を為る者孝より

全

後漢書

論語

先王の為る也。

○孝未終る則福を生ず。

○子乃罪を父母に累を

以たり大を為る者なり。

○父母在をば遠く遊ば

ず。禮をば必は方に在。

曾子語

○父母之於愛吾也。喜
ん。忘。其。後。

今

○父母之。を。惡。る。を。懼。む。
言。然。む。古。の。禮。

中江藤樹訓

○身。を。離。れ。ず。孝。を。と。す。
故。に。好。む。身。を。と。す。

吳陸凱語

○父母慈。ふ。し。字。子。孝。を
す。と。家。乃。盛。ふ。後。を。り。

孝經

○親。を。愛。む。は。孝。の。本。敢
て。人。を。惡。ま。れ。ず。

今

○親。を。敬。む。は。孝。の。終。敢
て。人。に。不。敬。と。ら。れ。ず。

孟子

○仁乃實也。親之事不親是也。里。

全

○義在實也。兄に従ふ是也。孝。

孝經

○孝也。以言君小事者。禮也。則忠也。

全

礼記

○弟を以て長小事ふ。是は則ち順なる也。○愛敬立て親より



始也。民不睦を教ふは在
里。

礼記

○敬起立以長より始む。
民不順を教ふは在り。

中江藤樹
訓

○父母乃恩を廣大無類
不し。恩乃大根本あり。

全

○兄を惠む以て弟を以
て教ふは道と云。

全

○弟を悌を以て兄を事
ふは道と云。

礼記

第二章

○人乃子を以て礼。冬を

温ふくも復冬清ふ也。

○ 出禮冬必以告け。反き

は必美面す。

○ 遊ふ所必去常ある習

ふ所必以業阿摩。

○ 居ふに奥ふ主たらば。

全

全

全

座或はふ席に中をば。

○ 行ふ道に中せは。立ふ

門ふ中せす。

○ 食を留ふ語らば。寢は

ふ言をば。

○ 父母の命。逆ふと勿き。

全

論語

礼記

急所をたのむ。

全

○孝子冬闇不服。其危
きに登らば。

全

○親老きは出ふに方
易へば。復ふ不時を過さ
ず。

全

○嚴威嚴恪。以て親に
法らば。所不誤らば。

曾子語

○父母に愛す所。亦之
を愛す。

全

○父母に敬む所。亦之
に敬む。

宋明道程語

論語

左傳

○敬身百邪小勝つ。
 ○禮の用と。和知貴と。と去。



礼記

全

い可らさるる身の災をり
 ○富賢はい言は禮を好む
 を知きは。則チ驕ら及レ淫を去。
 ○貧賤にいレ禮を好む

を 知 量 多 則 志 亦 為 體 矣。

第三章

○ 腹 を 量 多 食 一 身 既 度

了 衣 矣。

○ 外 在 養 重 け 體 多 内 乃

元 氣 損 矣。

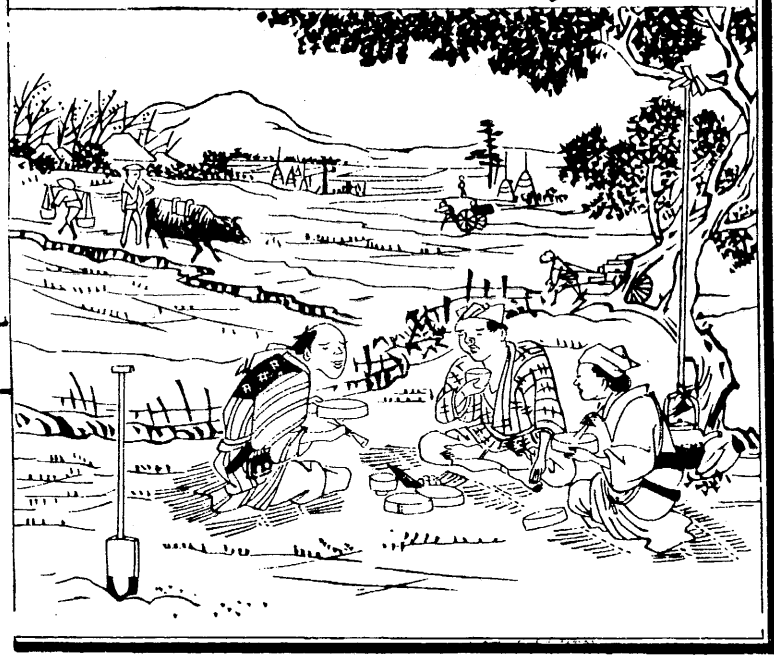
文子

貝原 篤信 訓

論語

藤原 資業 語

○ 飪 既 失
へ 後 七 食
歩 後 時 有
ら せ 皆 多
食 世 後。
○ 一 切 在



口業各事書卷一

珍味多。命を責。以。大敵在
理。

要覽

○病を口より入。里。禍を
口より出。

全

○酒食を過。去。多。病。生
才。保。乃。本。通。利。

論語

第四章

○事。小。敏。一。言。不。慎。一

免。

書經

○終。始。免。不。慎。一。也。
○德。孤。在。左。及。必。才。隣。阿

里。

徳川家訓 徳川光圀訓

輪子語 王女語

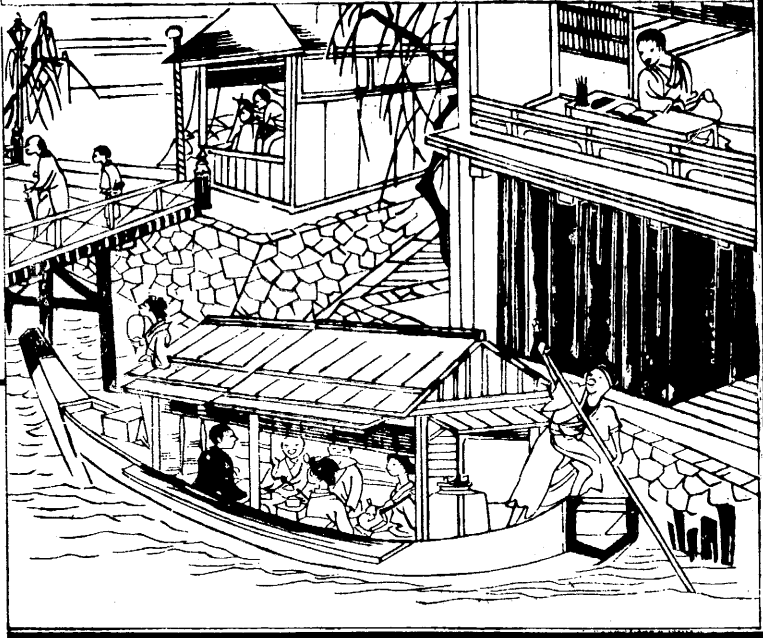
吳本祝詞 夫種

己を責る。人を責るな。
 苦も樂乃種。樂も苦種
 種と知るを。
 道德仁義も人乃食なり。
 禍も福も根を憂る。

韓詩外傳

橋良基訓

福の堂を
 利と害
 福の先
 百術有



宋富 弼自 戒言

書經

と以へると色。一清小くは
次。

○口守不瓶能如く意
を防む城の如し。

第五章

○終始公念ふ言。學を典

顔氏 家訓

葛氏 外編

礼記

小せよ

○學ぶ者も牛毛の如く。

成ふものは麟角の如し。

○水積む淵とあり。學積

了聖とあり。

○嘉肴のきと母食とさ

殆。

第六章

貝原篤信訓

論語

○人不交を侮ふ。愛敬乃
 二敬心法と云。
 ○已ふ志可有るを結ば
 友と交はるを結ぶ。

明方孝孺言

中江藤樹訓

韓子

○損友を敬し言遠さけ。
 益友を相親しむ。宜し。
 ○朋交を互に信ず。以言。
 相交ふ道と云。
 ○人亦愛し人を利を留
 るの爲。天必之を福とす。

史記

左傳

國語

後漢書

○愛施多仁。結端在少。
 ○儉多德。乃共在里。
 ○動多敬。不若之。上莫之。
 居之儉。不若之。はし。
 ○身を謹しめ。は阿也。中
 古有之。用此節。多禮。は坐

不し。の。有。は。

和漢修身書卷一 終

版權免許

明治十五年十月七日
同年同月刻成發兌

定價七錢

編輯者 京都府平民 河村與一郎

上京區第五組西三陽橋川町五百十九番地

出版人 京都府平民 田中治兵衛

下京區第五組寺町篠生太左衛門六番戶

發兌人 大阪府平民 柳原喜兵衛

大阪東區北久太郎町四丁目十五番地

和漢脩身書

河村與二郎編輯

卷二

71
259

會
函
架
號

大日本圖書會館			
一	四	一	一
冊	號	架	函

1

K110.1
39
2